2024 年4月吉日

「今こそ、まっとうな気候政策を創ろう」キャンペーンにご賛同のお願い

気候変動を憂慮する市民と科学者の有志連合

今の日本の気候政策では世界の人類、未来社会そして日本の将来に禍根を残すことになることを憂慮する良識ある有志市民たちが、様々な立場にある方たちと緩やかに団結して、日本の気候政策をまっとうなものに変えることを社会に呼びかけようとしています。

特にこれからの 10 年にどれだけ GHG 排出削減ができるか、今年・来年の決定が今後の人類の将来の岐路を定めるものになると言われています。そして 2025 年の NDC 改定論議がなされる今こそ正しい方向に舵を切るため声をあげる時です。

すでに気候危機対応政策は論議や計画を終えて実行の段階に入っています。気候安定化にはゼロエミッションが唯一の解決策で、日本の世界と人類への最大の貢献は自国での相応の削減を行う事です。そしてその実行の調整弁を握っている最大のステークホルダーは、生活生産の場で GHG を排出し、気候変動の被害に晒される市民（国民）や企業（産業）です。国の政策が間違ったメッセージを発するようでは、これからの取組を大幅に遅らせ、気候危機を止めることはできません。国民も上意下達の政策に委ねることなく、気候変動を自分事としてとらえて大いに政策に物言う時が来ています。

気候変動に関する研究を進めてきた研究者、世界の気候政策に賛同して活動を進めてきた環境 NGO だけでなく、最近は日本経済の将来を憂慮する多くの企業、未来世代や関心の高い市民の間でも、日本のいまの政策でいいのだろうかとの懸念が高まりつつあります。

このアピールの重要な要素は、科学的にも政策的にも信頼ある知見とそれに基づく提案が良識派専門家からなされていること、そして極めて多数の研究者、専門家、NPO／NGO、先駆的企業、地方公共団体がその見解を支持している事です。

多くの科学に基づく提言が学術界からなされ、環境 NGO が「世界の常識」を伝え、多くの市民が自主的な発言をしても、それらは散発的であり、まとまった強い力になっておらず、政策決定プロセスにはなかなか反映されていません。この機会を捉え良識ある市民有志と研究者が組んで現状の日本の気候政策をまともなものにするために、政策過程、広報、削減実装推進に向けて声を上げる必要があると考え、このキャンペーンを始めています。

具体的には、6 月 4 日日比谷図書館大ホールにおいて賛同者の決起大会を開き、「まっとうな気候政策づくり（案）」を各方面へアピールします。大会資料として現政策の批判と提案のいわゆるエビデンスを信頼ある研究家・専門家に執筆いただき、小冊子「日本の気候政策に対する批判と提案」を作成し、今後の賛同者拡大に利用する予定です。

今回のお願いは、このキャンペーン賛同者になって頂けないかということです。なお、賛同者名は賛同者リストに収録され、公表可能な方については公表する予定です。

皆様のご賛同を心からお願いいたします。

提案者一同（五十音順）
　明日香壽川・加藤三郎・西岡秀三・藤村コノヱ・松原弘直・桃井貴子

＊＊＊

賛同フォーム

https://forms.gle/37gaQhz81u6eW6gx8